

台風に見舞われた繁忙期も安全運航を維持 より安全に、安心して働ける職場に

このたびの台風で被害に遭われた方々に、謹んでお見舞い申し上げます

8月に発生した台風6号と7号は日本列島に大きな影響を及ぼしました。各地で大雨が降り、沖縄県や鹿児島県の離島では船便や航空機の欠航が相次ぎ、食料や日用品が不足する緊急事態となりました。安全が確認され次第、JALとイオンで物資の緊急輸送が始まりましたが、離島で働く社員への連絡が遅れ、現地ではかなりの不安が生じたようです。今後は、的確な情報がタイムリーに伝わり、支援がスムーズに受けられる体制を構築してほしいとの要望があります。

台風により自宅が被災した場合には会社の共済会から見舞金が出ますので、落ち着いたら申請を。JLUの見舞金は以下のとおりです。

組合員が現に居住する家屋が風水害、震災火災その他天災地変またはこれに準ずる災害により損害を受けた場合、見舞金として10,000円を限度に支給する。尚、併せて被災状況により、中央執行委員会の判断によってカンパ活動を行うものとする。この場合、罹災状況を証明する書類を必要とする。

第5類移行で旅行需要は本格的に回復



【2023.08.10 毎日新聞】

台風に見舞われたもののコロナが第5類になったことにより旅客需要は大幅に回復しており、各地の空港は混雑しました。8月3日に発表したJALのお盆の予約状況では、コロナ前の19年対比で国内線が94.3%、国際線が69.6%となっていました。

国際は7割程度、国内はほぼコロナ禍前に

2023夏期繁忙期輸送実績(8/10~8/20)

(単位:席,人)

	会社	提供座席	前年比/ 2019年比	旅客数	前年比/ 2019年比	利用率	前年比/ 2019年比
国際	ANA	286,099	171.1%	238,380	187.4%	83.3%	+6.8pt
			70.0%				66.8%
国際	JAL	255,432	140.2%	218,786	164.4%	85.7%	+12.7pt
			75.4%				69.2%
国内	ANA	1,867,845	106.9%	1,576,653	123.0%	84.4%	+11.0pt
			90.5%				90.1%
国内	JAL	1,460,708	94.6%	1,251,934	113.0%	85.7%	+13.9pt
			96.5%				95.9%

8月22日に航空各社の今年度お盆期間の実績が発表されました。大手の国際線は昨年を大きく上回りコロナ禍前の7割まで回復しました。特にハワイ線などのリゾート路線や近距離アジア路線の人气が高く前年を大幅に上回る需要となりました。国内線も好調で、スカイマーク、ソラシドエアでは、19年同期を上回る旅客数になりました。

良い人材を確保するために人的投資を

急激な需要回復により、人員補充が追いついておらず、運航を支える職場に大きな負担がかかっています。この問題はJALに限らず、航空業界全体に影響を与えています。航空各社は人材確保のために賃上げを検討しているはずですが、一時金を含めた年収は、仕事を選ぶ際の重要な要素であることに間違いありません。ですので、すでに提示されている2ヵ月という最低限の年末一時金は本当に適切なのでしょうか。

残業時間はしっかり付けよう

HMZのライン整備の職場では6月からの勤務変更に伴い、E勤とS勤の申し送り時間が短く、終業時間に事務所に戻ってこられない事例が発生しています。事務所から離れたターミナルで申し送りを行うため、一人が遅れると連絡車に同乗するグループ全員が待つこととなります。終業時間を過ぎていても少しの時間だから、遠慮して時間外手当を付けない人もいます。また、課によって少しの残業でも付けてもらえるところとそうでないところがあり、不公平感が出ています。

労働法の分野では、残業代は1分単位で請求するのが原則です。法律に基づいた正しい支払いでなければ、残業代に未払いが生じます。そのため、1分を超える残業時間を切り捨てて処理するのは、違法となります。



JALECのシステム上でも、5分単位で付けられることになっており、切り捨ては違法のため、定時を1分でも過ぎたら5分の時間外手当を請求できることになっています。

問題を解決するためには、以下の2つの方法が考えられます。

- ① 出退勤をターミナルに変更
- ② 連絡用の車両を増やす

組合として①は以前から訴えています。場所の都合もあり簡単ではありません。

②も即座に実現するのは難しいでしょう。

6月に勤務変更したばかりなので、実際の状況に合わせて正確な時間を記録していく必要があります。曖昧な記録では問題が解決しないばかりか、状況は悪化する可能性があります。拘束時間は労働時間に含まれるものであり、しっかりと残業手当を付けていくことが必要です。徹底して実行しましょう。



第15期日本航空ユニオン定期大会

日時:9月7日(木) 10:00~17:00

場所:フェニックスビル 3階会議室



日本航空ユニオンの新しい期が始まります。職場に大会議案書が届いたら大会通知ニュース(JLUニュース897)と合わせて、よく読んでいただき、参加される大会代議員に質問・意見を集約してください。15期の活動への提案や年末闘争で取り組んでほしいこと、組織の課題、職場の様々な問題について一日かけて議論します。大会でのみなさんの声が年末、来春闘に活かされます。「立派な航空人」をJALそしてJALECに残せるように、私たちに出来ることを考えていきましょう。

大会後に交流会を開催!

久しぶりに完全集合形式の定期大会が行われます。会議の後には、同じ会場で交流会が行われます。翌日の勤務に影響しない程度のささやかなイベントです。組織と勤務時間の細分化により、組合員同士の交流が以前ほど行われていない現状があります。そのため、お互いの悩みを共有したり、大会中に発言できなかった意見を執行部に伝える機会を設けました。

また、来賓として一人でも入れる客室乗務員の労働組合JCUから取り組みの報告もあります。航空業界で共に活動している仲間の声を聞いて、結束を強めましょう。

※代議員以外の組合員で参加したい方は、お気軽にお問い合わせください。

